

平成25年4月24日、25日に中学1・2年生を対象として「佐賀県学習状況調査」を実施しました。内容は2年生は国語・社会・数学・理科・英語の五教科、1年生は国語・社会・数学・理科の四教科および学習・生活に関する調査でした。その結果を分析し、本校生徒の全体的な傾向と今後の指導について検討いたしましたのでお知らせいたします。なお、生徒一人ひとりの学習の状況につきましては、「学習状況シート」を配布しております。また、家庭学習の時間の確保など、ご家庭の協力がが必要です。基本的な生活習慣の確立が学力に影響を及ぼすとも言われています。ご家庭でもよろしくご指導お願いいたします。

1. 1年生の傾向と今後の指導について

	傾 向	今後の指導について
国語	<p>全体での正答率を見ると、県平均を大きく上回っている。観点別の正答率は、「話す・聞く」は県平均と同程度、「読む」は県平均をやや上回り、「書く」「知識・理解・技能」は県平均を大きく上回っている。書くことに対する抵抗感がなく、無解答の生徒が少ない。</p>	<p>県平均と同程度の「話す・聞く」ことを丁寧に指導する。具体的には、音声教材を使って、聞いた内容についてメモを取らせ、設問に答えさせる。また、目的や相手に応じて話す場合の材料立てやポイントについて理解させ、実際に話して聞かせる場面をつくる。</p>
社会	<p>全体での正答率を見ると、県平均を大きく上回っている。観点別の正答率は、「技能」は県平均をやや上回っており、「思考・判断・表現」「知識・理解」は県平均を大きく上回っている。全体的に高いレベルであるが、あえて言えば高い知識が、表現しきれない傾向がうかがえる。</p>	<p>どの観点でも、県平均以上であるが、知識を生かし表現をする指導を継続的に行っていく。具体的には、単元テストの導入すること、ディベートの授業を展開することの2点である。単元テストを行うことで、予習・復習をこなし、知識の定着化を図る。ディベートの授業では、生徒たちの身近な論題をテーマとし、授業内容や諸資料に基づき、自分の考えをまとめさせる。討論では、自らの考えを伝える場、人の話を聞き、自分でまとめること、疑問に感じたことなどを表現する場を設ける。</p>
数学	<p>全体での正答率を見ると、県平均を大きく上回っている。観点別の正答率は、「考え方」は県平均をやや上回っており、「技能」「知識・理解」は県平均を大きく上回っている。全体的に高いレベルであるが、他のテスト資料を合わせて検討すると「知識・理解」に不安定さがあり、出題傾向に左右されている様子もうかがえる。</p>	<p>1年次は、「数と計算」の領域が多いので、計算力を定着させるために、計算課題プリントを配布し、小テストの実施、再テストでの定着を目指す。 また、授業中に既習の内容を問いかけていくことを心がけ、記憶の掘り起こしも行っていきたい。 TT授業を実施する中で生徒たちの疑問に多く答え、丁寧な指導をしていくことも心がける。</p>
理科	<p>全体の正答率を見ると、県平均を大きく上回っている。観点別の正答率は、「思考・表現」は県平均をやや上回っており、「技能」「知識・理解」は県平均を大きく上回っている。全体に高いレベルにあり、文章表現能力に優れている。</p>	<p>実験・観察に対して関心が高いので、実技を取り入れながらさらに能力を高めていきたい。文章表現能力が身につけているので、プリントや課題解決を中心に文章を書く能力や図や絵での表現能力を高めていきたい。 電子黒板を効果的に利用して、視覚的にもわかりやすい授業に取り組んでいきたい。</p>